

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000190
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホームユニット・ぐんちゅう
所在地	愛媛県伊予市米湊字西窪1131-3
自己評価作成日	平成28年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護労働安定センター開催の「介護職員定着プロジェクト」に参加しいろいろな取り組みを行っています。会社の理念である「悔いの残らないお世話をさせていただきます」をもとに、目標を「柔らかい笑顔・温かい言葉」として、ご利用者様にはもちろんスタッフ間でも実施できるよう努めています。またシステムの構築にも努めており、毎月全体会議・A棟会議を行い、情報の共有・個別ケアの充実に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JRや私鉄の最寄駅、国道、県道、高速道路とアクセスの良い場所にあり、近くに海浜公園、商店街といったのどかな昔ながらの街並みが残る町に開設され、15年の歴史を持つ事業所である。事業所の協力医療機関は、地域のホームドクターとして医療、看護、介護サービスを提供するクリニックである。看護師の配置もあり、24時間体制での医療連携が確保でき、日々の生活支援と共に安心した暮らしを提供することができている。今年度、管理者が交代し、気持ちを新たにスタートしたところである。法人理念である「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を第一に、サービスの提供を通じて住み慣れた環境で安心して暮らすことのできる支援に取り組んでいる。地域住民からは多大な協力を得ることができ、温かな地域性には大変恵まれている。同時に職員が15年をかけ、コツコツと地道に活動してきた結果であると評価できる。新しくチームを再編成し、法人をあげて職員定着プロジェクトに参加したり、チーム力の向上にチャレンジするなど、具体的に取り組んでいる事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年11月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ユニット ぐんちゅう

(ユニット名) A 棟

記入者(管理者)

氏名 森田 みずほ

評価完了日

H28 年 10 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を第一の理念にあげ、コミュニケーションをとりながら、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと生活していただけるよう努めている。職員皆で決めた年間目標である「柔らかな笑顔・温かい言葉」を大切に、ご利用者様にはもちろんスタッフ間でも実践できるよう心掛けてている。</p> <p>(外部評価) 第二の我が家となる家庭的なグループホームを目指し、笑顔とアットホームにこだわりを持っている。管理者の交代の機会に職員と話し合い、個々の言葉を集約して事業所目標を設定した。掲示物で確認したり、日々の業務の中で言葉の意味を振り返り、迷う時には理念に立ち返りながら前進することができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日頃、地区の回覧版もまわってきている。近所への散歩・又地域の行事に参加し、顔見知りとなることで、地域の一員として交流できるように努めている。「ユニットいよ」やデイケア・さくら幼稚園との交流あり、近くの集会所で開かれる手作り作品展にも、毎回参加しながら、地区の方々との交流を深めている。米湊港壽会ミニ情報誌いただいている。</p> <p>(外部評価) 挨拶や声かけなど毎日の小さな活動の大切さを実感している。事業所の専門性を活かし、地域住民に向けた講義や出前講座を開講したり、地域行事の情報を得ると積極的に参加している。現在では、介護相談を持ち掛けられたり、気軽に立ち寄ってもらえる場所として認知されている。地域での役職を引退後も協力してくれる住民や、長年傾聴や園芸セラピーを実施する高校生との交流など、事業所と地域をつなげてくれる温かな地域性にも非常に恵まれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域のボランティア・行事参加の誘いあれば、スタッフ参加し、認知症に関する質問等に答えている。又地域運営推進会議でも、地域の様子を聞き、認知症についての質問等に答え、できる範囲の事を行っている。利用者家族や面会に来られた地域の方々への認知症に関する質問にも、職員の理解している範囲で答え、認知症の方に対する理解を呼びかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、写真を見ていただきながら2ヶ月間の行事報告を 行った後、議題に関して話し合いを行い、参加している市役所職 員・区長・民生委員他より意見をいただき、サービスに生かすよう にしている。特に避難訓練時には、地域の方々にも参加していただ き、地区の方々の意見を参考にしている。	
			(外部評価) 利用者や家族等、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員 の他、親しくなった地域住民から参加協力を得て開催している。進 行は職員が担当し、利用者の日常や研修などの学びの報告を写真や わかりやすく作成した資料を作成し、視覚的に伝える工夫をしてい る。避難訓練や昼食会など、利用者の生活に触れてもらうことで実 情を理解してもらっている。意地域情の交換や報見交換が活発に行 われ、運営に活かすことができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 毎月グループホームの入居状況・予約者状況をメールいる。市役 所長寿介護課からも文書・メールにていろいろな情報をいただい ている。わからない事があれば、市役所他に問い合わせ、確認をし ている。訪問調査員も毎回の訪問により、信頼関係ができている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員には、運営推進会議に参加を 得ており、利用者の生活状況に実際に触れてもらうことで実情を伝 えることができている。生活保護受給者の様子も定期的な訪問によ り、状況確認ができている。運営上の問題はその都度相談できる状 態にあり、アドバイスをもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に見直しを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 玄関は可能な限り、施錠をせず開放的な雰囲気になっている。やむお えず身体拘束をする場合は、家族に同意をいただいております。でき るだけ夜間のみの短時間の拘束としている。自由で、家庭的な雰 囲気を大切にしている。	
			(外部評価) 身体拘束に関する勉強会や出前講座を開催し、正しい理解が深まる よう積極的に取り組んでいる。車椅子のベルトを使用し安全を優先 していた利用者に、職員が検討を重ね、状態を観察し医療関係者と 相談するなど、身体拘束をしないケアに努めている。家族等と状況 を話し合い、安全を確保しながら利用者にとっての自由を検討する ことができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞、ニュース等で虐待の事件があれば、その都度、原因や防止策について話し合いをしている。研修会や講義に参加した者は、記録を作成し、他の職員にも知識を広げている。入浴や身体介助時には、利用者の身体観察に努め、気になる点があれば報告し改善に向けている。職員のストレス軽減にも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し知識を広めている。参加者は記録を作成し、他の職員にも知識を広め、共有している。 日頃から、悩みや相談事には親身になり話を聞くよう心掛けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書に沿ってわかりやすく説明し、必ず疑問点がないか尋ねている。利用者と家族に納得、同意の上、書面にて契約手続きをしている。又、利用中の料金改正、契約内容の変更があれば、その都度、その理由を説明し、理解、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に行われる地域運営推進会議では、なるべく違ったメンバーになるよう配慮し、より多くの意見を頂いている。事業者が開催する行事には、家族や近隣者にも参加して頂き、意見や要望を聞いている。玄関には意見箱の設置あり。出された意見は前向きに運営にとり入れている。	
			(外部評価) 事業所内外の雰囲気づくりや、家族等と共に過ごす行事の開催を工夫し、足を運びやすい状況を作っている。日常の様子を便りにして伝えたり、面会時には声かけをして直接顔を見合わせて話をする機会を大切にし、信頼関係を深めている。小さな行き違いで積み重ねた関係を崩さないよう、どの場面にあっても誠意ある対応を心がけている。運営推進会議でも要望が気軽に発言できる状態にあり、業務の遂行に反映することができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 全職員に対して個別に面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見は、管理者会議にて、伝え改善すべき事は改善している。毎日朝行われる申送り時は、その日の出勤職員が自由に意見を発言できる場となっている。毎月1回スタッフミーティングを行い、職員の意見・提案を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 日常業務や毎月のスタッフ会と様々な場面で意見やアイデアなど思いを話し合うことができている。ハード面など事業所だけで解決しない課題は、管理者会議で相談し改善に努めている。ユニット毎に担当を分け業務分担し、ユニットリーダーを中心としたチームを再編成した。現在、法人をあげて職員定着プロジェクトに取り組んでおり、各ユニットのチーム力の向上に向けて励んでいる。法人代表者は職員にとり身近な存在で、職員の就業環境の整備に努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務年数、能力に応じ昇給あり。年二回の賞与、退職金制度あり。代表者は、資格取得を勧め、取得者には手当ての支給がある。代表者は管理者を通し、職員個々の勤務態度、能力、努力を把握し、昇格、昇給につなげている。職員研修時などで、一人一人の意見・希望を聞いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修会の案内があり、参加を積極的に勧めている。参加者の研修報告書には、必ずコメントを入れ、職員の能力、知識を把握し、意欲の向上につなげている。協力医療機関と連携をとり、社内研修が多く行われた。研修会には、日勤扱いで参加することが多い。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) GH協議会、CM協議会に加入し、研修会や行事には毎回参加し、同業者との交流を図っている。他GHとの相互研修に1名参加し、自施設のサービスの質の向上の為、参考になった。社内3事業所間では、地域運営推進会議他相互訪問する機会が多く、意見交換、情報収集に力を入れている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前アセスメントで、本人、家族の思いや希望を親身になり聞き取るよう努めている。環境の変化で戸惑ったり不安にならないよう、なるべく今までと同じ生活ができるよう環境や生活リズムを整えるよう支援している。家族とも信頼関係を深め、協力を頂き、共に本人を支えていく姿勢をとっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時、利用者、家族が困っていること、求めていること、不安な事など、悩みをゆっくり聞き、不安なく利用していただけるよう、時間をかけ、コミュニケーションをとりながら受けとめるようにしている。又電話での相談にもいつでも応じ、信頼関係を築くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の希望に耳を傾け、さまざまな選択肢を考えた上で、分かりやすく説明し、利用者・家族にとって一番良い方法を見極めている。一定期間後に必ず見直しを行い、確認をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔の話、しきたり等の話を聞いたり、人生の先輩として意見を参考にしたり、一緒に喜び、悲しみも分かち合える関係づくりに努めている。一对一の時間・かかわりを大切にしながら、本人を深く理解しようと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人に不穏や問題があれば、必ず家族と相談し同じ目標をもち家族と共に本人を支えている。行事やイベントには、家族を招待しなるべく会える機会を多く作っている。夫婦で入居している方には、夫婦だけの時間を大切にしている。他事業所に夫が入居している方には、なるべく多く会えるよう時間を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 敬老会・文化祭・運動会・地方祭等地域の行事に参加している。商店街やスーパーに買い物に出かけ、知人に会えた事があった。近所の方やボランティアの方の来訪が多くあり、顔馴染みになり、利用者様の楽しみになっている。家族の協力により、定期的に自宅への外泊を楽しみにしている方がいた。 (外部評価) 利用者が大切にしていきたい思いを汲み取り、家族等と思いを共有することで同じ目標に向かうことができている。開設以来親しくしている地域住民が立ち寄ってくれたり、地元の高校生との定期的な交流が継続しており、事業所の生活の中で新たな馴染みの関係が構築されている。利用者個々の途切れない関係継続のため、家族等からの協力も得るなど、支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 孤立せず、利用者様同士が安心して楽しく暮らせるように、ホールの席や外出時のメンバーに配慮している。気の合う利用者様同士が、自由に話し合える時間を見守っている。意見や立場に違いが生じた場合は、双方の間に入り、話を聞き、良い方向に向くよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去した利用者様の入院先に見舞いに行き、家族ともコミュニケーションをとりながら、状態把握に努めている。本人や家族からの相談には、出来る限り応じるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活の中で、コミュニケーションを多く取り、その人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。できる限り、本人本意の方向へと繋げている。意見の表現が困難な方には、日頃の言動や状態を家族に伝え、相談している。利用者様の言動は、個人記録に残して、職員間で情報共有している。	
			(外部評価) 利用者の生活歴を把握し、何気ない日常の自然な会話の中の思いを大切にしている。利用者その人にとって今何が必要なのか、職員で話し合い工夫することができている。思いや意向を伝えることが困難な場合、家族等に相談し連携しながら、本人本位に検討することに努め、利用者の表情やしぐさの中で理解し合える関係を何より大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントは、多方面からの情報収集に努めている。入居後も本人や家族、面会に来られる知人等から、生活歴・生活環境・サービス利用の経過等の情報をプライバシーに配慮しながら収集・把握している。また、それらを職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントの活用や本人からの思いや希望を聞きながら、本人の望む一日の過ごし方やしたい事、また、有する力等の把握に努めている。日々の生活の中で、その方に合ったできる事の場の提供を行い、有する能力の維持や新たにできる能力の発見に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様1名につき1名の担当職員を配置している。担当職員が中心になり、3カ月毎のモニタリング、6カ月毎のケアカンファレンスを行っている。家族の同席をお願いしているが、来れない場合が多く、事前に意見や希望をお聞きしている。主治医の居宅療養管理指導を取り入れている。本人の状態変化時には、見直しをしている。 (外部評価) 利用者の意向や面会の機会などを活用し家族等の要望を聞き、介護計画に盛り込んでいる。担当職員が中心となりカンファレンスで介護計画を立案し、計画作成担当者が作成している。日常の介護記録の書式は改善を重ね目標に沿った実施記録が根拠あるモニタリングへとつながっている。利用者に関する日常的な連絡や医療情報をノートで共有しているが、特定の利用者情報を抽出することが難しい状況にある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の個人記録、情報共有ノート以外にA・B棟別に更に細かいその日の利用者様の状態・活動等を記録するノートを作った。職員間で内容を共有出来ている。日々の個人記録には、介護計画に沿って実践できればチェックし、次の介護計画の見直しに活用されている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 1日3名迄受け入れできる認知症対応型通所利用は、職員の体制が整わず実践できなかった。家族・近所の方・ボランティア・他事業所の協力を得て、利用者様に楽しんで頂ける事が多かった。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 多くのボランティア活動が行われている。園芸セラピー・傾聴・輪投げ・歌や踊り・写真展示等、利用者様は、地域の方との交流を楽しみにしている。地域運営推進会議・消防避難訓練では、利用者様が安心して暮らせるよう話し合い、実践できた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前のかかりつけ医との関係を大切にしている。入居後も継続 か、協力医療機関への変更かは、本人や家族の希望通りにしてい る。病院受診の際は、必要に応じて情報提供したり、同行すること もある。協力医の訪問診療や訪問歯科がある。 (外部評価) 地域のホームドクターである協力医療機関による24時間365日 の医療連携が整っており、利用者や家族の安心感が高い。また入居 前からのかかりつけ医への受診も家族協力を得て継続できるよう支 援し、日頃の様子を情報提供書にまとめ、適切な医療が受けられる よう配慮している。緊急時には職員が同行して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日のバイタル測定・食事・水分摂取量・排便状態の記録や状態観 察により異常の早期発見に努めている。異常時には、職員は看護師 に伝えて相談出来る体制は整っている。職場内の2名の看護師と協 力医療機関の看護師の情報共有は、密に出来ており、迅速・適切な 対応ができています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 受診時には、主治医からの紹介状があり、入院時には情報提供をし ている。GHからもADLや入院に至るまでの経過等を医療機関に 情報提供している。定期的に見舞い、本人に安心感を持ってもらい 入院後の情報収集に努めている。退院時には、必要に応じて医療機 関看護師とGH関係者が退院時共同指導に行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に本人・家族に重度化した場合や終末期のあり方の希望を聞 き、事業所の出来る事を説明している。気持ちの変化が生じた場合 や重度化・終末期には、主治医から説明し確認をしている。なるべく 希望に添えるよう努めているが、できない場合は、その理由を説明 し同意を得ている。終末期には、主治医・看護師・職員が24時 間連絡をとれる体制が整っている。 (外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を整備し、契約時に事業所としてで きることを十分に説明し、理解が得られるよう努めている。利用者 個々の状態に応じ、その都度話合いの機会を設け意向を確認してい る。看取りの経験があり、医療関係者と共にチームで支援に取り組 んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや状態観察により、異常の早期発見に努めている。応急手当や初期対応は、看護師による指導や勉強会が行われている。また、職員は、急変や事故発生時の対応マニュアルを積極的に勉強している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の火災時の避難訓練を地域運営推進会議と合わせて実践し地域の方にも役割分担をお願いしている。利用者様には、訓練すること知らせず抜き打ちで行っている。非常持ち出し袋にランタン・コンロ・ガスボンベ等を増やした。水害・津波災害に対してのマニュアルを作成し各事業所の協力体制を話し合っている。	
			(外部評価) 年2回の避難訓練を行い、うち1回は消防署立ち合いで実施し、確実に避難できるように取り組んでいる。訓練は運営推進会議に合わせて実施することで、地域住民の参加協力を得ており、一時避難場所での見守りを担ってもらっている。また日頃から地域住民が気軽に立ち寄れる状況にあり、利用者の様子や事業所内の構造について理解を得ている面にも安心感がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃より管理者から職員に接遇に関しての指導がある。利用者様に尊敬の気持ちを持ち接すよう努めている。特に入浴や排泄はプライバシーに配慮している。個人を尊重し、本人の意思確認をしてからケアにあたる様に心掛けている。洗面所と脱衣所の間をカーテンで仕切り、見えないようにした。	
			(外部評価) 利用者を安心させようとする笑顔が時に「笑われた」と誤解されたり、離れた所での楽しそうな笑い声が「傷ついた」と捉えられることもあるため、利用者を取り巻く背景や状態を把握し、利用者一人ひとりに合った対応ができるよう配慮している。個人情報の取り扱いについて覚書を取り交わし、写真や氏名など日常的に使用する利用者情報の取り扱いは適切に管理することができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の言動や表情に注意して、何を希望しているかを把握し、できるだけ添えるようにしている。選択肢のある場合は、自己決定出来るように働きかけている。また、遠慮がちな方には、日頃からコミュニケーションを取り、言いやすい雰囲気をつくれるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎朝の健康体操やレクリエーションへの参加は、無理に勧めず本人の意志を尊重している。作業等に参加して頂く時も、本人の意志や気持ちを大切にしている。なるべく多くの利用者様に参加して楽しんで頂けるように、ドライブや行事の日にちや時間をずらす等の工夫をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、入浴時には、洋服を自ら選んで頂くようにしている。選択が困難な方は、スタッフと一緒に行う。2ヶ月に1回の散髪・毛染め・髭剃りなど身だしなみに心掛けその人らしいおしゃれが出来るように支援している。特に外出の際には、希望を聞きながら時間をかけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の利用者様に合わせて、食材の形状や献立を変えて提供している。食欲が増すように盛り付けの工夫もしている。家族の協力で、好物の差し入れをお出しすることが多い。手作りのおやつは、利用者様の前で一緒に行うようにしている。また、できる方には、職員と一緒に片付けをしている。 (外部評価) 献立は法人一括で専門業者に依頼し、事業所ごとに調理しており、利用者の好みやイベント等の行事食など、希望に沿ったメニューにも対応できるよう努めている。お茶の時間には手作りおやつを利用者と作るなど、楽しいひと時を過ごしている。外出行事や家族と共に外出する際に外食を楽しむこともできている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の状態に合わせて、粥・おにぎり・キザミ食を提供し、少しでも多く摂取出来るよう配慮している。摂取量の少ない方には、主治医の指示に従いエンシュア・ラコール補給をしている。飲み込みの悪い方には、トロミ・エンジョイゼリー・アイソトニックを提供している。食欲が出るように、食前にアイスマッサージをしている利用者様がいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは、できる方は自身で、必要な方には、声掛けやセッティングにより行えるよう支援している。困難な方の場合、口を開いて頂いたり、ロすすぎをして頂いたり、できる事をしてもらっている。訪問歯科により、口腔ケアのアドバイスがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) その時の状態に合わせて、なるべくオムツをしなくてトイレで排泄が出来るよう支援した。紙パンツ・尿パット使用から布パンツ・尿パット使用に改善出来た利用者様が数名いる。一人では困難な方には、排泄リズムを把握し、定期的にトイレ誘導を行っているが、トイレ動作の中で、移乗・ズボンの上げ下げ・手洗い等の出来る事を勧めている。</p> <p>(外部評価) トイレでの排泄を大切にしている。利用者の排泄パターンを把握し利用者の習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実践し、できることを奪わないケアに努めている。オムツ使用者も状態が安定している日中にはトイレでの排泄支援をすることで、自然排泄へ繋げることができている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎日の排便の有無・形状・量を確認して記録している。便秘時には、牛乳等を摂取して頂いている。必要時には、主治医・看護師に相談し頓服の緩下剤を服用したり、薬の見直しをしている。運動や腹部マッサージの支援をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 夏場は週3回、冬場は2回、入浴の日を設けている。利用者様の希望を聞きながら、入浴・シャワー浴・清拭に切り替えている。また、体調不良の方でも、希望があれば清拭・足浴等を行っている。同性介助を希望する方あり、応じている。</p> <p>(外部評価) 夏と冬、季節に応じ入浴回数を調整することで清潔保持に努めている。入浴が苦手な利用者に入浴を楽しんでもらうにはどうしたらよいか職員で検討し、楽しく入浴してもらおうよう努めている。声かけの方法等職員同士が学びながら工夫しており、無理強いすることなく入浴の支援ができている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間の就寝時間の他に、本人の希望や体調を見ながら、日中に臥床時間を取り入れている。利用者様が安心して気持ちよく休息や睡眠が取れるように、照明や温度調節に気を配っている。臥床時の入口の開閉は、本人の希望や状態に合わせている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の活用により薬の知識を増やしている。看護師が配薬を行い、適切に内服できているか職員が確認し、記録に付けている。本人の状態変化を主治医に相談し、必要に応じて、薬の見直しがある。内服が困難な場合は、粉碎にする等、薬局に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に合わせて、残存能力を活かし、野菜の皮むき・食事のセッティング・洗濯物たたみ・チラシでゴミ箱折り等を勧めている。縫い物・編み物・書道の得意な利用者様がいる。また、気分転換に中庭で日光浴や散歩、時々ドライブにも出かけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じ取れるように、花見物・神社への散歩はよく行っている。少し遠出のドライブで久万方面・重信方面へ出かけた。エミフル松前で買い物・お茶を楽しんだ。地区の敬老会へ家族と参加した方は、知人と話はずんだ。家族の協力を得ながら、帰宅・外食・買物・墓参り等本人の希望が多く叶えられた。 (外部評価) 運営推進会議や地域住民から得た情報をもとに、地域行事や催しに積極的に外出している。事業所の手入れの行き届いた庭で日光浴がてら気分転換を図ったり、周辺地域を日常的に散歩することで地域住民との交流もできている。家族等の協力を得て外出を楽しむ利用者もあり、外出先で知人に会うことなど、楽しみを見出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分自身で買い物が出来る利用者様は、職員が付き添い好きなものが買えるように支援している。好みの洋服を選び喜ばれている方あり。家族管理の為、所持金がなく不安に思っている方には、立て替えで必要な物が買える事を説明し、安心して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話が使用できる利用者様は、居室から自由にかける様、支援している。電話使用が困難であったり、難聴の方でも、希望があれば取次をしている。年賀状のやり取りをしたり、家族からの手紙は、必要に応じて代読し伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎朝の清掃、机の整理整頓やトイレの汚れが無いように特に気をつけている。居室・ホールの温度・湿度にも気をつけている。利用者様が集まるホールには、利用者様が作った塗り絵や季節感のある飾り物を展示し楽しんでいる。玄関には、季節の花や写真を飾っている。必要時、天窓を開けて居心地よく過ごしている。</p> <p>(外部評価) 玄関を入ると共用のホールとなっており、地域住民が提供してくれた写真がもてなす温かみのある造りとなっている。各ユニットのリビングは対面式のキッチンがあり、吹き抜けの高い天井で解放感ある空間となっている。畳のスペースには冬にはこたつが置かれるなど、自宅のようにほっとくつろぐことができる。利用者同士の関係性を考慮した配席を行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 話しの合う利用者様同士には、椅子の配置換えを行ない、会話や交流を楽しんでいる。ホールには、一人用椅子・畳腰掛があり、玄関ホールには、長椅子がある。個々が自由に過ごせるよう配慮している。天気の良い日には、玄関先に椅子を用意して、思い思いに利用している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時には、本人が必要とする馴染みの物を持参して頂いている。冷蔵庫・テレビ・ドレッサー・飾り棚等、自宅にいた時となるべく同じ生活が出来るようにしている。家族の写真や制作物も飾っている。本人と相談しながら、居心地良く過ごせるように、時々、配置換えも行っている。</p> <p>(外部評価) ベッドやタンス、エアコンが備えられ、利用者がこれまで使い慣れたものを持ち込んでもらうよう声かけし、居室が居心地よく過ごせる空間となるよう配慮している。部屋からは高校生が剪定してくれた中庭を眺めることができ、明るい環境にある。利用者の状態に応じ家具の配置や高さを調節したり、床に敷物を敷き安全面を確保するなど、安心して暮らせるよう努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者様それぞれが得意とするお盆拭き・洗濯物たたみ・縫い物・編み物ができるように場の提供を行っている。その日の献立をメモ書きして展示する方がいる。仕事がしやすいように椅子やテーブルを用意している。トイレ・洗面所・自室が分からない方の為に張り紙や矢印で示している。自室のタンスに名札付けして、分かり易いようにしている方がいる。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000190
法人名	有限会社ユニット・ワン
事業所名	グループホームユニット・ぐんちゅう
所在地	愛媛県伊予市米湊字西窪1131-3
自己評価作成日	平成28年11月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護労働安定センター開催の「介護職員定着プロジェクト」に参加しいろいろな取り組みを行っています。会社の理念である「悔いの残らないお世話をさせていただきます」をもとに、目標を「柔らかい笑顔・温かい言葉」として、ご利用者様にはもちろんスタッフ間でも実施できるよう努めています。またシステムの構築にも努めており、毎月全体会議・B棟会議を行い、情報の共有・個別ケアの充実に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JRや私鉄の最寄駅、国道、県道、高速道路とアクセスの良い場所にあり、近くに海浜公園、商店街といったのどかな昔ながらの街並みが残る町に開設され、15年の歴史を持つ事業所である。事業所の協力医療機関は、地域のホームドクターとして医療、看護、介護サービスを提供するクリニックである。看護師の配置もあり、24時間体制での医療連携が確保でき、日々の生活支援と共に安心した暮らしを提供することができている。今年度、管理者が交代し、気持ちを新たにスタートしたところである。法人理念である「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を第一に、サービスの提供を通じて住み慣れた環境で安心して暮らすことのできる支援に取り組んでいる。地域住民からは多大な協力を得ることができ、温かな地域性には大変恵まれている。同時に職員が15年をかけ、コツコツと地道に活動してきた結果であると評価できる。新しくチームを再編成し、法人をあげて職員定着プロジェクトに参加したり、チーム力の向上にチャレンジするなど、具体的に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ユニットぐんちゅう

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)

氏名 森田 みずほ

評価完了日

H28 年 10 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を第一の理念にあげ、年間目標である「柔らかな笑顔・温かい言葉」をご利用者様にはもちろんスタッフ間でも実践出来るよう心掛けている。毎月のスタッフ会議で業務内容の確認したり、B棟会議により介護方法等見直している。</p> <p>(外部評価) 第二の我が家となる家庭的なグループホームを目指し、笑顔とアットホームにこだわりを持っている。管理者の交代の機会に職員と話し合い、個々の言葉を集約して事業所目標を設定した。掲示物で確認したり、日々の業務の中で言葉の意味を振り返り、迷う時には理念に立ち返りながら前進することができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日頃、地区の回覧版もまわってきている。近所への散歩・又地域の行事に参加し、顔見知りとなることで、地域の一員として交流できるように努めている。「ユニットいよ」やデイケア・さくら幼稚園との交流あり、近くの集会所で開かれる手作り作品展にも、毎回参加しながら、地区の方々との交流を深めている。米湊港寿会ミニ情報誌いただいている。</p> <p>(外部評価) 挨拶や声かけなど毎日の小さな活動の大切さを実感している。事業所の専門性を活かし、地域住民に向けた講義や出前講座を開講したり、地域行事の情報を得ると積極的に参加している。現在では、介護相談を持ち掛けられたり、気軽に立ち寄ってもらえる場所として認知されている。地域での役職を引退後も協力してくれる住民や、長年傾聴や園芸セラピーを実施する高校生との交流など、事業所と地域をつなげてくれる温かな地域性にも非常に恵まれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域のボランティア・行事参加の誘いあれば、スタッフ参加し、認知症に関する質問等に答えている。又地域運営推進会議でも、地域の様子を聞き、認知症についての質問等に答え、できる範囲の事を行っている。利用者家族や面会に来られた地域の方々の認知症に関する質問にも、職員の理解している範囲で答え、認知症の方に対する理解を呼びかけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、写真を見ていただきながら2ヶ月間の行事報告を行った後、議題に関して話し合いを行い、参加している市役所職員・区長・民生委員他より意見をいただき、サービスに生かすようにしている。特に避難訓練時には、地域の方々にも参加していただき、地区の方々の意見を参考にしている。	
			(外部評価) 利用者や家族等、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員の他、親しくなった地域住民から参加協力を得て開催している。進行は職員が担当し、利用者の日常や研修などの学びの報告を写真やわかりやすく作成した資料を作成し、視覚的に伝える工夫をしている。避難訓練や昼食会など、利用者の生活に触れてもらうことで実情を理解してもらっている。意地域情の交換や報見交換が活発に行われ、運営に活かすことができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月グループホームの入居状況・予約者状況をメールしている。市役所長寿介護課からも文書・メールにていろいろな情報をいただいている。わからない事があれば、市役所他に問い合わせ、確認をしている。訪問調査員も毎回の訪問により、信頼関係ができている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員には、運営推進会議に参加を得ており、利用者の生活状況に実際に触れてもらうことで実情を伝えることができている。生活保護受給者の様子も定期的な訪問により、状況確認ができている。運営上の問題はその都度相談できる状態にあり、アドバイスをもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に見直しを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は可能な限り、施錠をせず開放的な雰囲気になっている。やむおえず身体拘束をする場合は、家族に同意をいただいております、できるだけ夜間のみの短時間の拘束としている。自由で、家庭的な雰囲気を大切にしている。	
			(外部評価) 身体拘束に関する勉強会や出前講座を開催し、正しい理解が深まるよう積極的に取り組んでいる。車椅子のベルトを使用し安全を優先していた利用者にも、職員が検討を重ね、状態を観察し医療関係者と相談するなど、身体拘束をしないケアに努めている。家族等と状況話し合い、安全を確保しながら利用者にとっての自由を検討することができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞、ニュース等で虐待の事件があれば、その都度、原因や防止策について話し合いをしている。研修会や講義に参加した者は、記録を作成し、他の職員にも知識を広げている。入浴や身体介助時には、利用者の身体観察に努め、気になる点があれば報告し改善に向けている。職員のストレス軽減にも努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し知識を広めている。参加者は記録を作成し、他の職員にも知識を広め、共有している。日頃から、悩みや相談事には親身になり話を聞くよう心掛けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書に沿ってわかりやすく説明し、必ず疑問点がないか尋ねている。利用者と家族に納得、同意の上、書面にて契約手続きをしている。又、利用中の料金改正、契約内容の変更があれば、その都度、その理由を説明し、理解、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的開催される地域運営推進会議では、なるべく違ったメンバーになるよう配慮し、より多くの意見を頂いている。事業者が開催する行事には、家族や近隣者にも参加して頂き、意見や要望を聞いている。玄関には意見箱の設置あり。出された意見は前向きに運営にとり入れている。 (外部評価) 事業所内外の雰囲気づくりや、家族等と共に過ごす行事の開催を工夫し、足を運びやすい状況を作っている。日常の様子を便りにして伝えたり、面会時には声かけをして直接顔を見合わせて話をする機会を大切に、信頼関係を深めている。小さな行き違いで積み重ねた関係を崩さないよう、どの場面にあっても誠意ある対応を心がけている。運営推進会議でも要望が気軽に発言できる状態にあり、業務の遂行に反映することができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 全職員に対して個別に面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見は、管理者会議にて、伝え改善すべき事は改善している。毎日朝行われる申送り時は、その日の出勤職員が自由に意見を発言できる場となっている。毎月1回スタッフミーティングを行い、職員の意見・提案を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 日常業務や毎月のスタッフ会と様々な場面で意見やアイデアなど思いを話し合うことができている。ハード面など事業所だけで解決しない課題は、管理者会議で相談し改善に努めている。ユニット毎に担当を分け業務分担し、ユニットリーダーを中心としたチームを再編成した。現在、法人をあげて職員定着プロジェクトに取り組んでおり、各ユニットのチーム力の向上に向けて励んでいる。法人代表者は職員にとり身近な存在で、職員の就業環境の整備に努めている。</p>	<p>職員定着プロジェクトの導入を機に、チーム力向上について課題に取り組んでいる。職員は新しいことへのチャレンジに躊躇する面も見られるが、管理者は職員の迷いなく自立した行動がとれる姿勢を高く評価し、3年後、5年後のより良い体制づくりに期待している。職員個々の資質を考慮した育成方法を実践し、職員で思いについて話し合ったり、互いの良い面に着目し、尊重し合うことで強固なチームへと成長して欲しい。</p>
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務年数、能力に応じ昇給あり。年二回の賞与、退職金制度あり。代表者は、資格取得を勧め、取得者には手当での支給がある。代表者は管理者を通し、職員個々の勤務態度、能力、努力を把握し、昇格、昇給につなげている。職員研修時などで、一人一人の意見・希望を聞いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修会の案内があり、参加を積極的に勧めている。参加者の研修報告書には、必ずコメントを入れ、職員の能力、知識を把握し、意欲の向上につなげている。協力医療機関と連携をとり、社内研修が多く行われた。研修会には、日勤扱いで参加することが多い。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) GH協議会、CM協議会に加入し、研修会や行事には毎回参加し、同業者との交流を図っている。他GHとの相互研修に1名参加し、自施設のサービスの質の向上の為、参考になった。社内3事業所間では、地域運営推進会議他相互訪問する機会が多く、意見交換、情報収集に力を入れている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前アセスメントで、本人、家族の思いや希望を親身になり聞き取るよう努めている。環境の変化で戸惑ったり不安にならないよう、なるべく今までと同じ生活ができるよう環境や生活リズムを整えるよう支援している。家族とも信頼関係を深め、協力を頂き、共に本人を支えていく姿勢をとっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時、利用者、家族が困っていること、求めていること、不安なこと、悩みをじっくり聞き、不安なく利用していただけるよう、時間をかけ、コミュニケーションをとりながら受けとめるようにしている。又電話での相談にもいつでも応じ、信頼関係を築くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の希望に耳を傾け、さまざまな選択肢を考えた上で、分かりやすく説明し、利用者・家族にとって一番良い方法を見極めていく。一定期間後に必ず見直しを行い、確認をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔の話、しきたり等の話を聞いたり、人生の先輩として意見を参考にしたり、一緒に喜び、悲しみも分かち合える関係づくりに努めている。一对一の時間・かかわりを大切にしながら、本人を深く理解しようと努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 帰宅外泊・墓参り・買い物等で本人と家族の絆を大切にしている家族がいる。面会の少ない家族には、スタッフが電話を取り継ぎ支援している。電話が困難な家族には、手紙出しを手伝っている。行事やイベントには、家族を招待し、なるべく会える機会を多くしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前からの知り合いで、広報や本を持参してくれ交流を続けている近所の方がいる。本人以外の利用者様とも馴染みの関係ができていく。園芸セラピーの先生や生徒さんと仲良しになり、良い関係ができていく利用者様が数名いる。 (外部評価) 利用者が大切にしていきたい思いを汲み取り、家族等と思いを共有することで同じ目標に向かうことができている。開設以来親しくしている地域住民が立ち寄ってくれたり、地元の高校生との定期的な交流が継続しており、事業所の生活の中で新たな馴染みの関係が構築されている。利用者個々の途切れない関係継続のため、家族等からの協力も得るなど、支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他者との交流をあまり好まない男性利用者様には、新しく入居した話が合いそうな男性利用者様との交流を勧めて良い関係ができた。得意な事や好きな事を他者に紹介して、少しでも交流ができるよう支援した。100歳を迎えた利用者様のお祝いの会を利用者様・家族・職員で行った。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 独居の利用者様の死亡、退所があった。遠縁の姪の同意を得て、生前の本人の希望通り、通夜、火葬、ご主人と一緒に墓への納骨をGH関係者で行った。また、サービス終了後も手紙や電話のやり取りをして経過をフォローした家族がいる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様の居室で1対1でゆっくり時間をとり話を聞くといいや希望を話されることが多い。家族に伝えたり、職員間で共有し、なるべく希望に沿うよう支援している。死後、ご主人の墓に納骨できた独居の利用者様1名あり。意見の表現が困難な方は、日頃の言動を家族に伝え、共に考えるようにしている。 (外部評価) 利用者の生活歴を把握し、何気ない日常の自然な会話の中の思いを大切にしている。利用者その人にとって今何が必要なのか、職員で話し合い工夫することができている。思いや意向を伝えることが困難な場合、家族等に相談し連携しながら、本人本位に検討することに努め、利用者の表情やしぐさの中で理解し合える関係を何より大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントは、多方面からの情報収集に努めている。入居後も本人や家族、面会に来られる知人等から、生活歴・生活環境・サービス利用の経過等の情報をプライバシーに配慮しながら収集・把握している。また、それらを職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントの活用や本人からの思いや希望を聞きながら、本人の望む一日の過ごし方やしたい事、また、有する力等の把握に努めている。日々の生活の中で、その方に合った場の提供を行い、有する能力の維持や新たにできる能力の発見に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 半年のショートステイを経て、入居に至った利用者様名あり。本人・家族・CMと話し合い、本人がより安心して暮らせるよう支援した。その他、数名のショートステイ利用者様も本人・家族・CM・デイサービスの職員の意見を参考に介護計画を作成した。	
			(外部評価) 利用者の意向や面会の機会などを活用し家族等の要望を聞き、介護計画に盛り込んでいる。担当職員が中心となりカンファレンスで介護計画を立案し、計画作成担当者が作成している。日常の介護記録の書式は改善を重ね目標に沿った実施記録が根拠あるモニタリングへとつながっている。利用者に関する日常的な連絡や医療情報をノートで共有しているが、特定の利用者情報を抽出することが難しい状況にある。	細やかな日常記録は、書式に工夫があり、誰もがわかりやすい記録を作成することができている。一方、利用者の変化や医療情報をノートで共有しているが、特定の利用者情報を抽出したり、利用者の状態の変化を確認することが難しいので、個別に記載するなど工夫されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の個人記録、情報共有ノート以外にA・B棟別に更に細かいその日の利用者様の状態・活動等を記録するノートを作った。職員間で内容を共有出来ている。日々の個人記録には、介護計画に沿って実践できればチェックし、次の介護計画の見直しに活用されている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 地元高校生による園芸セラピーは、馴染みになり楽しみにしている利用者様が多い。良い関係ができています。身寄りのない利用者様の通夜・火葬・納骨に対応した。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地区のふれあい作品展に利用者様と職員で作った作品を出展し、地域の方と交流出来た。また、多くのボランティア活動が行われて楽しむことができた。地域運営推進会議や消防避難訓練では、利用者様が安全に暮らせるよう話し合い、実践してきた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前のかかりつけ医との関係を大切にしている。入居後も継続 か、協力医療機関への変更かは、本人や家族の希望通りにしてい る。病院受診の際は、必要に応じて情報提供したり、同行するこ ともある。協力医の訪問診療や訪問歯科がある。 (外部評価) 地域のホームドクターである協力医療機関による24時間365 日の医療連携が整っており、利用者や家族の安心感が高い。また 入居前からのかかりつけ医への受診も家族協力を得て継続でき るよう支援し、日頃の様子を情報提供書にまとめ、適切な医療が受 けられるよう配慮している。緊急時には職員が同行して対応して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日のバイタル測定・食事・水分摂取量・排便状態の記録や状態 観察により異常の早期発見に努めている。異常時には、職員は看 護師に伝えて相談出来る体制は整っている。職場内の2名の看護 師と協力医療機関の看護師の情報共有は、密に出来ており、迅 速・適切な対応ができています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 受診時には、主治医からの紹介状があり、入院時には、情報提供 をしている。GHからもADLや入院に至るまでの経過等を医療 機関に情報提供している。定期的に見舞い、本人に安心感を持っ てもらい、入院後の情報収集に努めている。退院時には、必要に 応じて医療機関看護師とGH関係者が退院時共同指導に行ってい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に重度化した場合や終末期のあり方の希望を聞き、事業所 の出来る事を説明している。気持ちの変化が生じた場合や重度 化・終末期には、主治医から説明し確認をしている。なるべく希 望に添えるよう努めているが、できない場合は、その理由を説明 し同意を得ている。終末期には、主治医・看護師・職員が24時 間連絡をとれる体制が整っている。 (外部評価) 重度化及び看取りに関する指針を整備し、契約時に事業所として できることを十分に説明し、理解が得られるよう努めている。利 用者個々の状態に応じ、その都度話し合いの機会を設け意向を確認 している。看取りの経験があり、医療関係者と共にチームで支援 に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや状態観察により、異常の早期発見に努めている。応急手当や初期対応は、看護師による指導や勉強会が行われている。また、職員は、急変や事故発生時の対応マニュアルを積極的に勉強している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の火災時の避難訓練を地域運営推進会議と合わせて実践し地域の方にも役割分担をお願いしている。利用者様には、訓練すること知らせず抜き打ちで行っている。非常持ち出し袋にランタン・コンロ・ガスボンベ等を増やした。水害・津波災害に対してのマニュアルを作成し各事業所の協力体制を話し合っている。	
			(外部評価) 年2回の避難訓練を行い、うち1回は消防署立ち合いで実施し、確実に避難できるように取り組んでいる。訓練は運営推進会議に合わせて実施することで、地域住民の参加協力を得ており、一時避難場所での見守りを担ってもらっている。また日頃から地域住民が気軽に立ち寄れる状況にあり、利用者の様子や事業所内の構造について理解を得ている面にも安心感がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃より管理者から職員に接遇に関しての指導がある。利用者様に尊敬の気持ちを持ち接すよう努めている。特に入浴や排泄はプライバシーに配慮している。個人を尊重し、本人の意思確認をしてからケアにあたる様に心掛けている。洗面所と脱衣所の間をカーテンで仕切り、見えないようにした。	
			(外部評価) 利用者を安心させようとする笑顔が時に「笑われた」と誤解されたり、離れた所での楽しそうな笑い声が「傷ついた」と捉えられることもあるため、利用者を取り巻く背景や状態を把握し、利用者一人ひとりに合った対応ができるよう配慮している。個人情報取り扱いについて覚書を取り交わし、写真や氏名など日常的に使用する利用者情報の取り扱いは適切に管理することができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の言動や表情に注意して、何を希望しているかを把握し、できるだけ添えるようにしている。選択肢のある場合は、自己決定出来るように働きかけている。また、遠慮がちな方には、日頃からコミュニケーションを取り、言いやすい雰囲気をつくれるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自分の役割の仕事を楽しんで行えている利用者様がいる。本人の気持ちを尊重して長く行えるよう見守っている。毎朝の体操やレクリエーションへの参加を嫌がる利用者様がいるが、無理には勧めず本人の意志や気持ちを大切にしている。言葉の工夫で気が向くことがある。本人の気持ちに寄り添う支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、入浴時には、自ら洋服を選んで頂くようにしている。選択が困難な方は、職員と一緒に選んでいる。2カ月毎の散髪や毎日の整髪・髭剃り等、身だしなみにその人らしい好みのお洒落が出来るよう支援している。特に外出時には、本人の希望を聞きながら時間をかけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むき・配膳の準備・テーブル拭き・下膳片付け等は、日常になっている。その人に応じた仕事を楽しみながら行えている。食事の会話を楽しんだり、食欲のない方を応援する利用者様を見守っている。また、利用者様からのリクエストに答えて献立を変更することもある。	
			(外部評価) 献立は法人一括で専門業者に依頼し、事業所ごとに調理しており、利用者の好みやイベント等の行事食など、希望に沿ったメニューにも対応できるよう努めている。お茶の時間には手作りおやつを利用者と作るなど、楽しいひと時を過ごしている。外出行事や家族と共に外出する際に外食を楽しむこともできている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、全利用者様の食事・水分摂取量を記録している。主治医や看護師に相談しながら、個々の状態に合わせて、粥・おにぎり・キザミ・ミキサー食を提供している。嚥下状態に応じて、トロミ・エンジョイゼリー・アイソトニックを提供している。なるべく多く摂取出来るよう声掛けしながら支援している。体調の悪い時は、居室でゆっくり食べて頂くようにした。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは、できる方は自身で、必要な方には、声掛けやセッティングにより行えるよう支援している。困難な方は、口を開いて頂いたり、口すすぎをして頂いたり、できる事をしてもらっている。訪問歯科により、口腔ケアのアドバイスがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 紙パンツ・尿パット使用から布パンツ・尿パット使用に改善された方二名あり。一人では困難な方は、排泄リズムを把握し、定期的にトイレ誘導を行い、なるべくオムツ状態にならずにトイレで排泄ができるよう支援している。その際も出来る事を勧めている。	
			(外部評価) トイレでの排泄を大切にしている。利用者の排泄パターンを把握し利用者の習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実践し、できることを奪わないケアに努めている。オムツ使用者も状態が安定している日中にはトイレでの排泄支援をすることで、自然排泄へ繋げることができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の排便の有無・形状・量を確認して記録している。便秘時には、牛乳等を摂取して頂いている。必要時には、主治医・看護師に相談し頓服の緩下剤を服用したり、薬の見直しをしている。運動や腹部マッサージの支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 好みの入浴剤を選んで頂いたり、湯船につかって足の運動をする等、入浴を楽しめるよう支援している。入浴日に入れなかった利用者様には、別の日に入浴できるよう、臨機応変に対応している。入浴を嫌がる利用者様には、家族からの手紙を見せたり、数名の職員がタイミングを見て工夫をしながら声掛けをしている。	
			(外部評価) 夏と冬、季節に応じ入浴回数を調整することで清潔保持に努めている。入浴が苦手な利用者に入浴を楽しんでもらうにはどうしたらよいか職員で検討し、楽しく入浴してもらおうよう努めている。声かけの方法等職員同士が学びながら工夫しており、無理強いすることなく入浴の支援ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間の就寝時間の他に、本人の希望や体調を見ながら、日中に臥床時間を取り入れている。利用者様が安心して気持ちよく休息や睡眠が取れるように、照明や温度調節に気を配っている。臥床時の入り口の開閉は、本人の希望や状態に合わせている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の活用により薬の知識を増やしている。居宅療養管理指導により薬剤師が薬を管理し、適切に内服できているか職員が確認し、記録に付けている。本人の状態変化を主治医に相談し、必要に応じて薬の見直しがある。内服が困難な場合は、粉碎にする等薬局に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 野菜の皮むき・洗濯物たたみや干し・食事配膳を自分の仕事として楽しみながら行う方がいる。園芸セラピーの生徒さんと一緒に野菜作りを楽しみにしている方もいる。個々の能力に合わせて残存能力を活かせるよう場の提供をしている。気分転換に中庭で日光浴や散歩、時々、ドライブにも出かけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じ取れるように、花見物・神社への散歩はよく行っている。少し遠出のドライブで久万方面・重信方面へ出かけた。エミフル松前で買い物・お茶を楽しんだ。地区の敬老会へ家族と参加した方は、知人と話がはずんだ。家族の協力を得ながら、帰宅・外食・買物・墓参り等本人の希望が多く叶えられた。 (外部評価) 運営推進会議や地域住民から得た情報をもとに、地域行事や催しに積極的に外出している。事業所の手入れの行き届いた庭で日光浴がてら気分転換を図ったり、周辺地域を日常的に散歩することで地域住民との交流もできている。家族等の協力を得て外出を楽しむ利用者もあり、外出先で知人に会うことなど、楽しみを見出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分自身で買い物が出来る利用者様は、職員が付き添い好きなものが買えるように支援している。家族管理の為、所持金がなく不安に思っている方には、立て替えで必要な物が買える事を説明し、安心して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話が利用できる利用者様は、居室から自由にかける様、支援している。電話使用が困難であったり、難聴の方でも、希望があれば取次をしている。年賀状のやり取りをしたり、家族からの手紙は、必要に応じて代読し伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎朝の清掃、整理整頓やトイレの汚れが無いように特に気をつけている。居室・ホールの温度・湿度にも気をつけている。利用者様が集まるホールには、利用者様が作った塗り絵や季節感のある飾り物を展示し、楽しんでいる。玄関には、季節の花や写真場を飾っている。必要時、天窓を開けて、居心地よく過ごしている。</p> <p>(外部評価) 玄関を入ると共用のホールとなっており、地域住民が提供してくれた写真がもてなす温かみのある造りとなっている。各ユニットのリビングは対面式のキッチンがあり、吹き抜けの高い天井で開放感ある空間となっている。畳のスペースには冬にはこたつが置かれるなど、自宅のようにほっとくつろぐことができる。利用者同士の関係性を考慮した配席を行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 話しの合う利用者様同士には、椅子の配置換えを行うい、会話や交流を楽しんでいる。ホーるには、一人用椅子・畳腰掛があり、玄関ホールには、長椅子がある。個々が自由に過ごせるよう配慮している。天気の良い日には、玄関先に椅子を用意して、思い思いに利用している。喫煙者には専用の場所を設けている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時には、本人が必要とする馴染みの物を持参して頂いている。冷蔵庫・テレビ・ドレッサー・飾り棚等、自宅にいた時となるべく同じ生活が出来るようにしている。家族の写真や制作物も飾っている。本人と相談しながら、居心地良く過ごせるように、時々、配置換えも行っている。</p> <p>(外部評価) ベッドやタンス、エアコンが備えられ、利用者がこれまで使い慣れたものを持ち込んでもらうよう声かけし、居室が居心地よく過ごせる空間となるよう配慮している。部屋からは高校生が剪定してくれた中庭を眺めることができ、明るい環境にある。利用者の状態に応じ家具の配置や高さを調節したり、床に敷物を敷き安全面を確保するなど、安心して暮らせるよう努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 野菜の皮むき・食事の配膳・テーブル拭き・洗濯物たたみや干し等が無理なく楽しみながらできるように、椅子やテーブルを用意している。トイレ・洗面所・自室が分からない方の為に張り紙や矢印で示している。自室のタンスに名札付けして、分かり易いようにしている方がある。</p>	